



# HSFC-GAPファンド ステップ2のご説明

公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）

# 大学発新産業創出基金事業（JST基金事業）とは

**国際展開する大学発スタートアップの創出と  
高校生等へのアントレプレナーシップ教育の拡大**

令和4年度第2次補正予算額 1,500億円  
※施設整備502億円については、地域中核・特色ある  
研究大学の振興の一部と重複計上

文部科学省



【国別ユニコーン企業数】

国	企業数
米国	515
中国	39
イギリス	25
フランス	24
カナダ	24
韓国	17
日本	15
オーストラリア	12
スイス	11
カナダ	7
メキシコ	6
オランダ	6
スウェーデン	6
オーストリア	6
韓国	5
スコットランド	5
スウェーデン	5
スコットランド	5

資料：CB INSIGHTS（2022年2月1日時点）  
※特に文部科学省にて作成



【国別割合（調査対象：130）】

国	割合
日本	39.2%
米国	20.0%
オーストラリア	10.8%
カナダ	9.2%
スウェーデン	8.5%
オランダ	12.3%
その他の国	12.3%

（出所）一社登録法人ヘーネンターフィズツーエーネー白書2021.年版にて作成

**背景・課題**

- ✓ スタートアップ5年で10倍増を視野に、スタートアップを強力に育成するとともに、国際市場を取り込んで急成長するスタートアップを創出していくためには、**大学発スタートアップ創出力の抜本的強化**が必要
- ✓ そのためには、創業前から、**国際市場への展開可能性を検証するための支援や、地域の大学等から生まれる技術シーズへの支援、起業を志す人材育成の機会を抜本的に拡充することが重要**
- ✓ そこで、スタートアップ創出元年である令和4年度から、**国際展開も見据えたギャップファンド等の支援を大幅に拡充**とともに**アントレプレナーシップ教育の機会を高校生等へと拡大**する



**大学発新産業創出基金事業 988億円【基金】**

事業実施期間：令和4年度～（原則5年間）

○大学発スタートアップ創出を支援するギャップファンドプログラムの新設

- 拠点都市や地域の中核大学等の技術シーズに対して、海外の専門家等からのメンタリングなどとセットで国際市場への展開可能性を検証するギャップファンドプログラムを創設し、国際市場への展開を目指すスタートアップ等の創出に取り組む

○地域の中核大学等のスタートアップ創出体制の整備

- 大学発スタートアップ創出の抜本的強化に向けて、地域の中核大学等を中心に、地域の金融機関や他大学等と連携して、優れた技術シーズ等を活用した起業を進めるためのエコシステム形成に取り組む

**起業家層の拡大に向けたアントレ教育の高校生等への拡大**  
-EDGE-PRIME Initiative-

10億円

- スタートアップ創出の抜本的拡大に向けて、その基盤となる人材の量や多様性を増やすため、拠点都市を中心にアントレプレナーシップ教育の機会を、優れた理数系の才能を有するこどもを始め、将来設計の入り口である高校生等へ拡大
- 件数・単価：1.2億円程度×8拠点
- 交付先：JSTを通じて大学等を支援

**地域中核・特色ある研究大学の連携による  
産学官連携・共同研究の施設整備事業**

502億円（※）

- 研究力の向上戦略の下、大学間の連携を通じて地域の中核・特色ある研究大学として機能強化を図る大学による取組に対し、共同研究拠点化に向けた施設やオープンイノベーションの創出等に必要な施設の整備を支援
- 件数・単価：20億円程度×25件程度
- 交付先：大学

※地域中核・特色ある研究大学の振興の一部と重複計上

出典：JSTホームページより抜粋「スタートアップ・エコシステム共創プログラム」個別公募説明資料P3

# スタートアップ・エコシステム共創プログラムとは

## 大学発新産業創出基金事業の基本方針（概要）

**目標**

(1) 社会・経済にインパクトを生み、国際展開を含め事業成長するポテンシャルを有する大学等発SUの創出を質・量ともに充実  
 (2) 大学等発SUの継続的な創出を支える、人材・知・資金が循環するエコシステムの仕組みを全国に形成

**インパクト**

- ・革新的な製品・サービスによる社会課題の解決及び豊かな国際社会の実現
- ・事業成長による我が国の雇用創出及び経済成長の実現
- ・成功事例を積み重ね、より多くの人材が大学等発SUの創出・育成を志す
- ・大学等においてステークホルダーと連携を図り学内のルールや体制を整備

**①国際市場を目指すディープテックスタートアップの創出支援**

**【趣旨】**  
 ディープテックの優れた研究成果を基に、国際市場への展開を視野に社会・経済に与えるインパクトに掲げるビジョンの実現及びリードする大学等発SUの創出に向けて、概念実証以降のフェーズに入ることが適切とされる課題の事業化と研究開発を、マイルストンの達成に向けて一貫的に推進する

**【基本的な枠組み】**  
 国際市場展開に向けた事業化及び研究開発マイルストンを設定し、その達成に向けて必要な取組を推進  
 国内外の事業化推進機関と研究者が共同代表として一体となって推進

**【実施期間・費用】**  
 長3年程度（新規公募・採択はR9年度まで）  
 総額5億円（直接経費）程度を上限

**共通の取組や支援**

- ・採択課題の知財戦略に基づく大学等の単独出願特許確保に向けた取組
- ・外部専門機関等の効果的・積極的な活用
- ・施設・設備の確保
- ・起業後の発展に向けた取組

**②スタートアップ・エコシステム共創プログラム**

**【趣旨】**  
 大学等発SU創出にポテンシャルあるシーズを全国から引き出すとともに、国際市場への展開も含め、大学等発SUの創出に向けた取組を増やすとともに、継続的な創出を支える人材・知・資金が循環するエコシステムを拠点都市PF、地域PF、中心的な役割を果たす各大学等に形成する

**【基本的な枠組み】**

**A) 拠点都市アラートフォーム（拠点都市PF）共創支援**

- ・ギャップファンドプログラムの運営及び実施
- ・経営者候補・事業化支援人材の確保と育成等の機能の充実
- ・案件発掘機能の強化（各省の拠点事業との連携含む）
- ・海外のSUJICOシステムとのNW構築・強化
- ・地域PFに対するメンタリング等

**B) 地域アラートフォーム（地域PF）共創支援**

- ・全国から案件を発掘・育成するための新たなエコシステムの共創
- ・ギャップファンドプログラムの運営・実施
- ・産学官金との連携体制構築等  
 <拠点都市PFと連携>
- ・概念実証フェーズ以降のギャップファンドプログラムの実施等

**C) 全国ネットワーク構築支援**

- ・全国の拠点都市PFと地域PFが連携し、それぞれのPFの枠組みを超えた研究成果活用型SUの創出支援が可能となる共通基盤の共創

**【実施期間・費用】**  
 用途仮説設計から概念実証フェーズの手前：原則500万円程度まで、1年程度（新規公募・採択はR9年度まで）  
 概念実証以降のフェーズ：原則6000万円程度まで、最長3年程度（新規公募・採択はR9年度まで）

**引き継ぎ検討する事項**

- ・可能性検証プログラムのR6年度以降について
- ・大学等発SUのモデルケースの創出
- ・マクロトレンド分析
- ・SU創出に深く関わる政府の他事業との連携

**令和5年度上記に先立ち実施**

- ①プロジェクト推進型起業実証支援・事業プロモータ支援プログラム
- ②可能性検証プログラム

出典：JSTホームページより抜粋「スタートアップ・エコシステム共創プログラム」個別公募説明資料P4

# 全国プラットフォームの紹介



## 拠点都市PF



北海道大学



東京大学  
早稲田大学  
東京工業大学



MICHINOKU ACADEMIA  
STARTUP PLATFORM

東北大学



名古屋大学



広島大学



京都大学



九州大学  
九州工業大学

## 地域PF



北陸先端科学技術大学院大学  
金沢大学



信州大学

※主幹機関の名前を記載

# HSFC（北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク）とは



北海道内の大学・高専など複数の関係機関からなる  
大学等発研究開発型スタートアップ創出のためのプラットフォーム。  
GAPファンドに申請いただけるのは主幹機関と共同機関



# HSFC-GAPファンド ステップ2の概要



概念実証とスタートアップ組成のフェーズを経て、実際に起業に至るステップ

フェーズ	ステップ1（プレ支援）	ステップ2（スタートアップ組成）
支援額 (直接経費)	応用研究 上限 500 万円	概念実証・スタートアップ組成 上限 6,000 万円
定義・ねらい	基礎研究の成果について、ビジネスとしての可能性を評価できる段階まで引き上げることを目指します。	前半ではビジネスとしての可能性の評価と実証（PoC）を行い、起業にあたってクリアすべき課題の解決を目指します（概念実証）。 後半ではこれら取組に加え、大学等発スタートアップの組成と <u>VCが投資判断できるレベル</u> に向けて、PoCを継続して実施します（スタートアップ組成）。
支援期間	JSTとの契約から概ね1年間	JSTとの契約（2025年4月以降予定）から3年を上限
公募時期	年1回	年1回
採択予定件数	24件程度	4件程度
アグリ・フード枠	うち7件程度	なし

マイルストン評価会あり：1年度ごとに1回、審査委員による進捗評価

- ✓ 事業化推進機関と共同申請すること
- ✓ 二次審査では、事業化推進機関が事業化の説明をすること
- ✓ 学生が研究代表者として申請することは不可能

事業化推進機関を見つけていない申請予定者は  
10/18マッチングイベントをぜひご利用ください

細かな応募の要件は、公募要領p.9をご確認下さい

- 申請課題
- 研究代表者
- 事業化推進機関
  - 現段階で候補がない場合はその旨を「その他」に記載してください。  
10/18マッチングイベント利用もしくは個別でご相談ください。
- 提案分野
- その他（特記事項や質問等）

# 申請書（研究開発計画書）の項目抜粋



- 顧客
- 解決手段
- 規制・事業化リスク
- 研究開発課題を推進する体制
  - 事業化推進機関を含め、役割を明確に記載する
- 達成目標とマイルストン
  - 年度ごとに明確に記載する
- 圧倒的な優位性
  - 社会を変革するようなインパクトについても記載する
- スタートアップ設立に向けた計画
  - 経営人材の確保、経営に対する研究代表者の関与、資金調達計画、国際市場への展開戦略を具体的に記載する
- 課題推進工程表
  - 年度ごとに具体的に記載する

# 評価の観点



審査項目	審査の観点
明確なマイルストン設定	<ul style="list-style-type: none"><li>● 概念実証以降のステップに進むことが適切か、または既に進んでいるか。</li><li>● JST 基金事業が想定するマイルストンが適切に設定されているか</li><li>● 事業化に向けた技術課題が特定され、適切な対応方針が検討されているか。</li></ul>
技術シーズ・知財の状況	<ul style="list-style-type: none"><li>● シーズは競争優位性を有するか。</li><li>● 新規性、独創性はあるか</li><li>● 知的財産権がある場合には、その権利関係が明確かつ活用可能な状態か。</li><li>● 事業の中核となる特許群の出願について適切な計画ができているか。</li></ul>
事業性	<ul style="list-style-type: none"><li>● 適切な対象市場の分析や類似事業を把握したうえで競争優位性を有するか。</li><li>● 開発する製品やサービスは成長性・収益性が見込めるか。</li><li>● 想定される事業リスクが適切に把握され、具体的な対応策が検討されているか。</li><li>● 事業化までのプロセス（事業計画、資金計画）は妥当か</li><li>● 国際市場への展開を見込めるビジネスモデルか。</li></ul>
計画	<ul style="list-style-type: none"><li>● 事業構想に基づいた研究開発計画や知財戦略が立てられているか。</li><li>● 予算の使途や規模は適切か、また具体性が高いか。</li><li>● 資本施策の策定や経営者候補人材の参画等の計画が適切に設定されているか。</li><li>● シード期の資金調達に向けて適切な目標達成や収支計画が設定されているか。</li></ul>
事業化に向けた実施体制・スケジュール	<ul style="list-style-type: none"><li>● 目標の達成および計画の遂行に向けて、適切なチームが構築されているか。</li><li>● 事業化推進機関の支援を受けており、その指示や課題に応えることができているか。</li><li>● 事業化に向けたスケジュールが明確になっているか。</li><li>● 事業化への熱意があり、かつ理念が明確でコミュニケーション能力を有しているか。</li></ul>
総合評価	<ul style="list-style-type: none"><li>● 国際市場において大きな成長が期待できるか。</li><li>● SDGs やカーボンニュートラルなど、社会課題の解決に資する提案となっているか（社会貢献性）</li><li>● 社会・経済に対して大きなインパクトをもたらす可能性があるか。</li></ul>

## 今後のスケジュール



各大学の起業支援人材と相談のうえ、  
早めにエントリーをお願いいたします

公募説明会（オンライン）	2024年9月24日（火）18:00～19:00
エントリーシートの提出期間 ※e-learningプログラムの受講	2024年9月24日（火）～10月18日（金）正午
公募開始	2024年10月25日（金）
集合研修の受講（オンライン）	2024年10月28日（月）18:00-20:00
個別面談期間（希望者のみ）	2024年10月下旬～11月下旬頃
申請書等提出期日	2024年11月28日（木）正午【厳守】
審査会（ヒアリング審査、講評）	2025年1月中旬
最終審査（HSFC推進会議）	2025年1月下旬～2月上旬頃
採択結果（内定）の通知	2025年2月中旬頃
プログラムの開始	2025年4月 予定

2024年10月18日（金）正午までに、  
エントリーシートをE-mailで提出してください（厳守！）

提出先 : start-gap@noastec.jp  
件名 : GAPファンドエントリー

エントリーされた方には、下記をご案内します

- ✓ e-learningプログラム受講（任意）
- ✓ 専門家による集合研修と個別面談
- ✓ 申請書の提出方法

公募要領、エントリーシート及び申請書等は  
ノーステック財団のホームページをご確認ください→



## お問い合わせ先



### 【 HSFC-GAPファンドに関する内容 】

ノーステック財団（公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター）

产学連携支援部 GAP ファンド担当

E-mail : [start-gap@noastec.jp](mailto:start-gap@noastec.jp)

TEL : 011-708-6536

### 【 HSFC全般や共同機関などに関する内容 】

北海道大学 産学・地域協働推進機構 北大スタートアップ事務局

E-mail : [hsfc-jimu@mcip.hokudai.ac.jp](mailto:hsfc-jimu@mcip.hokudai.ac.jp)

TEL : 011-706-9556

# APPENDIX

本プログラムを通じ、研究代表者や起業支援人材に助言を行う者（VC等）。

- ✓ 共同申請者として参画する際は、研究成果の事業開発に対する責任を有する。
- ✓ シーズに関する深い理解のうえで、市場の環境分析等を通じて創出を目指す大学等発SUの適切な事業化計画とそれに必要な研究開発計画を策定し、研究開発課題をリードすると共に、民間からの投資の獲得に向けた事業育成を行う。
- ✓ 起業に向けた体制構築のため、HSFC が行う経営者候補人材のマッチングに協力とともに、必要に応じ、自ら経営者候補人材の選定・推薦の実施や、研究開発課題への参加を通じた経営者候補人材を育成する。